



ミュージアム・レター

Gakushuin University
Museum of History

Museum Letter No.19

発行日 ● 平成24年(2012)4月5日

もくじ



- ごあいさつ……1
- 出来事はどのように伝えられたか——「瓦版」から「新聞」へ……2
- 絵葉書の誕生……3
- 大正 いくつもの顔を持つ時代……4
 - 明治の終わり・大正の始まり……5
 - 写された大正時代……6～9
 - 大正時代の学習院……10

- ◎学習院大学史料館のスタンプラリーに参加しませんか?……12
- ◎第67回史料館講座のおしらせ……12
- ◎展覧会参考図書のご案内……12



平成24年度学習院大学史料館常設展

大正の記憶—絵葉書の時代

ごあいさつ

今日「絵葉書」として私たちが親しんでいるものは、旅先の風景や名所、美術館・博物館や展覧会の出品物の絵葉書などでしょう。また、花や猫などの写真、イラストレーター作品も絵葉書として売られています。これらは、展覧会の絵葉書が会期と結びついている以外、特定の出来事との関係はありません。

ですから、大正時代(1912～26)の絵葉書には時事的性格のものが少なくないこと、それどころか、絵葉書は大きな出来事を視覚的に報道する最先端のメディアだったことを知って、私は非常に驚きました。皇太子(後の昭和天皇)の外遊や博覧会の開催などのめでたいことだけでなく、関東大震災のような大災害も絵葉書になったのです。誰かが絵葉書を買ひ、それを知り合いに送ることによって、起きたばかりの出来事の視覚的情報は速やかに広まったと思われれます。受け取った人々は、「百聞は一見に如かず」と、絵葉書に報じられた出来事を受けとめたことでしょう。

もちろん、「真を写す」と書く写真の絵葉書であっても、写真を撮る人、これを印刷し刊行する人がいる以上、絵葉書の画像は事実そのままではないはずで、そこには、作り手が意識していないものも含めてさまざまな「作為」が働いているでしょう。それを看破するのは専門家にも難しいとしても、写真や絵などの視覚的資料から過ぎし日を再構成するに際しては、視覚化にあたっての「作為」や「定型」への注意も欠かせないと思います。

大正期の絵葉書は今日のそれとは非常に異なる性格を有したわけですが、一方で、私がごく最近の現象と見ていたことが当時すでに行われていたというのも驚きでした。家族写真の年賀状です。もっとも、当時は写真館や印刷所などに頼んだであろうことが、現在ではパソコンとデジタルカメラさえあれば、自力で気軽にできるようになりました。

遠くも近くも思われる大正期の絵葉書の数々は、どのような時代のイメージを皆様にお伝えするのでしょうか。「大正の記憶—絵葉書の時代」展の開催にあたり、学習院大学史料館に絵葉書や資料を寄贈・寄託、あるいは貸与してくださった方々に、心より御礼申し上げます。

(館長 高橋裕子)

期間：平成24年(2012)4月5日(木)～6月9日(土)

日曜・祝日・5/15休館

特別開館 4/8入学式、4/15オール学習院の集い

時間：平日 12:00～17:00 土曜日・特別開館日 10:00～17:00

●入場無料

*ギャラリートーク:4/15(日) 12:00～ 14:00～
5/12(土) 14:00～